

第4回 子ども未来応援会議

日時 平成24年4月26日(木) 午後1時30分より

会場 生涯学習センター 第1学習室

出席者 委員

大坪委員長、岡村委員、片山委員、金原委員、小山委員、佐野委員、
清水委員、榛葉委員、大社委員、禰津委員、堀見委員、村本委員

事務局

教育部長、生涯学習課職員、教育推進室職員

○協議

A委員

今、お話がありましたが、〇〇日本一と一括りにまとめると、どう表現していけばいいか難しいので、身につけて欲しいことという形なら凄く分かりやすくなると思います。この資料によくまとめてあって、資料内容を全部盛り込めるといいかなと思いましたけど、子供の学び合い支え合って言葉もすごくいいと思いますし、私は0歳からの教育という言葉もいいと思います。

これらをどう一つの言葉にまとめればよいか考いているところですが、保護者や地域の人・教職員の人たち、みんなで子供たちを盛り上げようと力が湧いてくるようなものになるといいと思います。

委員長

A委員が自分のお子さんに対して普段から一番重視されている事はなんですか？

A委員

挨拶です。でも、全然出来てないです。「ありがとう・ごめんなさい・おはようございます・おやすみなさい」そういう言葉を一番に大事にしています。

委員長

自分で普段重視していることと、ここに発言したものが、実は違っているということもあるのではないですかね。

A委員

ただ、今はどこの小・中学校でもあいさつ運動を実施しているので、生徒は自然と身につけてきている。

委員長

そうなる、次は何ですかね？

A委員 次に重視しているのは、相手を思いやる事。自分も相手も大切にする。

委員長 もう一つ。藤枝の教育環境はいいと思いますか？

A委員 いい環境だと思います。私は関西から来ましたが、子どもは小学4年生まで関西でした。ほとんどの子どもが塾通いしていました。

今、子どもが通う中学校が特にそうと思いますが、転校してきてもみんなが受け入れてくれる。中学校に急に転校してくると馴染むのが凄く難しいですけど、みんなが馴染んでくれる。なぜ学校に行けない子が出てくるのか、何ができなくて、何が嫌で学校に行けないのかがわからない。

委員長 周りの環境で他所から来る子供を受け入れてくれるのは理想的に思う。もう考えなくてもいいくらいですかね？

A委員 でもその中で、学校に行けない子どもが出てくるのは、自分が何か知らないところがあるということ、子供の複雑な気持ちは分からない。

委員長 B委員の子供さんも学校行っていますよね。これ見てどうですか？

B委員 自分の子供は近隣市で育ちましたが、朝の通勤をしている時に通学している子供たちを見て、藤枝市の子供たちは、上級生は下級生の面倒を良く見てまとまって通学しているなどと思います。

自分の子供の事を言うと、「目を見て挨拶をする」「目を見て話を聞く」自分の気持ちを伝える」、それから、小さい頃から今も玄関の靴を必ず揃える事は徹底しています。

自分は2人の個性を伸ばしてあげたい。それぞれに好きな事も全然違うので、それぞれの光輝くものを見つけて伸ばしていきたい。それが親としての意識。将来は人や社会に出て役に立つ人間になって欲しい。

自分の子供に対してはこうですが、このまとめの方向性については、子供に身につけて欲しい事は、創造力・問題解決力ですけど、これって大人の社会でも、会社で社員にも言いたい事ですよ。基本的に大人でも身につけている人はどれぐらいいるのか疑問です。なぜ身につけて来なかったかと考えますが、もう少し子供に伝えるには分かりやすい内容にしてあげた方がいいのでは。大人の世界では「そうだよね」ってわかりますけど、子供ならもっとわかりやすい言葉で大人が子供に伝える時にそういう風に身につけて欲しいって、みんな思っていると明快に伝わる様な内容にしたいです。

委員長 明快にしたいですね。ポイントはここに書いてあるようなことでいいが、表現を考えないと。「創造力」では子供には意味が分からない。

B委員 どうしたら創造力が身についていくか。

一人一人興味を持つことは違うじゃないですか、興味を持ちなぜだろうって追求していくとパッとある時にアイデアが湧き出てくる。いろんな経験をして経験を紡ぎ合った時にパッと新しいアイデアが出てくる。何もない無からアイデアを生み出すのは難しいと思う。創造力っていうのは、年数を重ねていかないと出てこない部分と、好きなことに打ち込んでいる時に、とんでもない能力を発揮する部分があるのではないか。子供には好きな事を打ち込んでやらせる、そうする事で創造力が身につくと思う。

創造力って言うよりは好きな事を見つけて打ち込み努力をしていくとかの方がわかりやすいかな。

C委員 日本一というどうしてもモノサシになってしまう、どこが日本一かと。

日本一は一つのキャッチフレーズとして、学びの環境日本一でいいのではないか。創造力は僕らにもないが、B委員の言う通りで、小さい頃からの育てられ方じゃないかと思う。

言ってしまうとどの項目も全部押し付け。大人が全部おぜん立てしてリードしてしまえば、元の木阿弥になってしまう。子供たちが考えることを待つてあげる。考える間を持つ事が大事だなと思う。

今までの教育は、教え込んだり・たたき込んだり・無理強いしたり・押し付けたりだったと思いますが、そこから離れていけばいいじゃないかな。

この前、テレビで見たことで詳しくは分かりませんが、オランダの話で、小さい頃から集団で物事を考えさせる。いろんなテーマを与えて、先生や親は外から見ている。そうすると子どもたちだけで少しずつ集団のあり方や役割みたいなものが出来ていくというのを見ましたが、そういう事ができたら素晴らしいじゃないかと思いました。

日本一が、モノサシになってしまうのはマズイですね。

委員長 よく思うのが、なぜみなさん塾に行くのか、日本一塾のない街にしたらおもしろいですよね。

一度、高校の先生に講演したことがあるが、塾があんな大きなビルを建てている。あれは教育界の「恥の塔」と呼んだ方がいいと。教育界は基礎教育がきちんとできていない、やってないという表れ。

もう一つは違う教育をやっているのではないか。高校教育の目的に満足しないから、ほとんどの人が全然違う教育をしている塾に行っている。

A委員 家に居ても勉強が出来ないから、塾に行くのではないか。家でちゃんと家庭学習ができればいいですけど、それが家に居ると遊んでしまうので親は塾に行くと安心する。

委員長 それは矛盾している。遊ぶって事は重要な事ですよ。

A委員 そうですね。でも、結果がどうあれ、塾に行っていると安心する。

D委員 みんな行っているし横並びに安心感がある。

A委員 私の子どもが通う高校では、塾は勧めていなかった、時間帯を設けて分からない事を先生に聞いたり、時間外の勉強を学校でできる様にしたりとか、自分で勉強をやる子は先生の所に質問を持っていくので塾に行かない。

委員長 とても議論になる場所ですね。こんなことが議論になるのは韓国と日本くらいです。オランダやアメリカでは塾なんて聞いたことがない。なぜ塾があるのか、学校の教育と塾の教育と違う教育をやっているのでは。

親は違う意識を持っているのではないか。塾の窓には進学校入学の張り紙が貼ってある。親が狙っているのは子供をいい大学に入れたいということではないか。それなら、いい大学に入れるような教育って書かなければいけないのではないか？

A委員 「勉強日本一」も最初の時に出たと思いますけどね。でも、本人が大人になっていく段階で、自分で問題解決していかなくちゃいけない。

E委員 3月に葉梨小・中学校の卒業式を見ましたが、大変感動的な卒業式でした。葉梨小では、卒業証書を貰った後に壇上で、すべての子供が「私はこういうことを努力してきて、中学に入ったらこういう風になりたい」と言う事を100人くらい居た児童すべてが言えた。これは子供が育っている姿ですよ。すべての子供が自分の言葉でしっかりと言えるということは、日常の授業の中で鍛えられていたということだと思うし、どんな事を言っても許されると思える人間関係がある中でないと、できないと事だろうと思います。子供が育っているかどうかで事をどうやって計るかは、点数化はできな

いが、子供の様子を見れば、あれはたぶん小学生としては、すでに日本一のレベルに近いような子供が育っているであろうと。

中学校でも子供達が企画した旅立ちの会みたいなものが実施され、子供たち全員ではないが選ばれた子たちが部活で頑張ったことや将来は何になりたいかをしっかりと述べることができ、全員合唱もすばらしかったです。これもまた、小学校で培ったことが中学校でも生かされていて小・中一貫の教育がなされた結果9年後にはこういう姿になるってことを具体的に示してくれたと思います。

そういう姿は、すでに日本一と言ってもいいような姿であろうと思います。それは、葉梨小学校や葉梨中学校だけの特別な例でなくて藤枝市の小中学校では、ほぼ似たような事が多分行われていると思います。子供が育つという意味で言えば藤枝市の小中学校はかなりの水準にあるだろうと思う。

ただ、日本一をどうとらえるかと言うと、葉梨中学校の卒業生が東大に何人入るかと言うと、たぶん滅多に入らない。うちの息子も葉梨中卒業ですが、東大には行っていませんので、そのところをどうしますかね。少子化になっても東大には入り易くはならない、東大に入りたい方は大勢いらっしゃいますからね。難関校と言われる大学は人口が減っても、誰でも入れるかと言うとそんなことはない。入れない人はどこにも入れない、入れる人はどこにでも入れるって状況になる。

鳩山元総理大臣は東大を出てアメリカの大学にも留学なさっているが、彼が有能な総理大臣であったかと言うとそうではないとみなさん思うわけですよ。彼に創造力はあったのか？問題解決能力はあったのか？という彼はなかったと思う。

一つは、なぜ塾があるのかっていえば、日本では指導要領があって、すべて同じ内容を教えているので、教えられた内容をどれだけ正確に再現できるかってことで、教育の効果を計ろうとしたわけです。アメリカなどでは、学校によって教科書が全部違い多種多様な教科書が出ている。共通のテストみたいなものがあるようですが、向こうの大学入試テストでは、必ずしも学科試験だけでは大学試験が通らない。日本は歴史的にそういうのが好きなので、なかなか抜けられないと思いますね。日本人も韓国人も同じですよ。

一つ言いたいことは子供の伸びている姿なんて数値化できないし、子供を見れば、しっかり育っているのは、大人は誰でもわかる。これを見る時に思うのは、授業を運営する教師の力もあるんですが日本一のレベルに近いようなことはいっぱいあるんですが、この中には出てこない。すでにある立派なものは、すでにこれは日本一だよと書き込んでもらいたいと思う。「これはすごい」というものはあるはずなので、それ以外にどんな力をつけるかだと思

いますよね。

藤枝に大きな塾のビルが建っているとお話がありましたが、公教育にいたものにとっては敵のような存在ですよね。おもしろくないと思いますね。ですが、行けば行っただけの効果はないとは言えないが、その効果も本当は計ることは出来ないですよね。A君は塾に行くと勉強が出来る様になって東校に行けたのか、それともA君は塾に行かずに家で勉強していても東校に行けたのか、そこはわからないので心配になって一種の保険のように塾に行く。

子供の姿で育っていることを見てくことが重要だと思う。葉梨小学校・中学校の子供が育っていると地域のものとしては、すごく嬉しいと思います。

委員長

どうしても日本一って計測したくなる。そうすると必ず議論になる。人間の能力や力をどうして計るか、握力などの計れるものもあるが、計れない能力は悩むところ。私は入試反対です。私は大学の先生達に、「あなた方は何十年と教育者をしてきたのだから、人を見抜く力を持ってなければ、教育なんてできない。テストで計るのは、コンピューターでできる」と言った。長い間、日本人は機械に頼りすぎて、人を見抜く目や能力が教育者になくなってしまった。

教育の本源というのは、人が持っている能力を見つけ出して育て上げることだと私は思っているが、できないからそっちを放棄してしまった。公正とか公平をと言われて、テストが公正だと思ってしまった。

今、お話された事は私たちの悩みです。この間、偉い先生との議論で、「今、大学に来るべきでない学生が大学に来ている。基礎能力がない」と言われた。私は「基礎能力がなかったら、基礎能力をつけてやったらどうですか？」と言ったが「それは小学校中学校でつけるべき」とお答えになった。

非常に難しいテーマだと思う。

D委員

私の方は、商工業の立場で、そういった発展をどうしたらいいかっていう考えの中で人口が減っている街じゃあしょうがない。それじゃあ人口が増えるような街にしたいじゃないですか。人口が増える為にはどうするか、確かに藤枝は里山やいろんなものもあるし、その中では教育だって必要な要素だと思います。特に私どもは若い層が藤枝に住んでいけばいいかなって思います。若い人、子供を持つ親にとって教育っていうのは大事な要素になると思います。市長が言った教育日本一を我々はそう定義づけをしていますが、私もいろいろ考えて指標で出すのは難しいけど、「学びの環境日本一」これでもいいじゃないかと思いました。

先ほど言われたように、私も藤中・藤小のPTAをやらしてもらったりして、

藤小の合唱だって感動しますよね。子供たちの合唱を見ても学校が平穩の時はレベルが高いですよ。私は素人だからどれ見ても感動しますが。そのことを考えた時に環境日本一だったら堂々と言えらると思いますよ。そうしたら、それでいいじゃないかな。

A委員 私も、また改めて資料を見て、ここにまとめてあるじゃないと思い、この「学びの環境日本一」って載っていて身につけて欲しいことも、みんなここに書いてある。みなさんが話し合った事が全部一まとめにまとめて、「学びの環境日本一」と素晴らしくまとめてあるって思いました。

F委員 私は「学びの環境日本一」と書かれているのを見て、最初に思ったことはこの会議の一回目・二回目と学校教育がクローズアップされましたよね。その後に、学びってもっと生涯教育的にいいものじゃないかって付け加わってきた。これを見ると今度はどっちかっていうと学校教育が抜けちゃっているかなって思ったので、先ほど E 委員がおっしゃったように、やはり教育いうのも支援する学校の教育の部分っていうのは子供を育てる大きな部分を占めると思うので、それも入れたいと思います。

0歳から大人までというしっかりした生涯教育を考える、そしてその中の一部が学校教育であり大人の教育であり幼児の教育になるのかなって、それぞれの細かな部分を抑えなきゃいけないのかなと思う。今、言ったところが「つなげる」と書かれている部分になるのかなって思いました。だから、0歳からつなげるということを教育振興基本計画に示していただきたい。

先ほどからお話にあがっている創造力とかを学校教育の中で育てようと言っても、やはり最終的には大人の意識がそこに向いてないと。創造力をつけることが子供にとってとても大事なことだと思ってないからジグザグになってくるのかなって思う。

大人がモデルになるようなそういうものは、この計画の中にはないのかな。学校でよく言われるのは、教師が変われば子供は変わるというが、やっぱり全部の子供の学びを生涯教育にしたときに大人が変われば子供は変わるって言えるのではないかと思う。

委員長 日本一って言葉がある為に、みなさんの頭にブロックができています。日本一って言葉を使わないで、日本人がモデルにしたい教育環境というようにすればいいのではないか。

私が行っている学校の分野で理想設計論というのがありまして、理想とするモデルを考えて、それを作り上げていくことがいいものを作り上げるとい

う考えがありまして、工場を作る場合にも工場を単に作るのではなくて、理想的な工場とはどんなものかと議論してから作ると、とてもいい工場ができます。例えば、能率のいい工場にしようとして、能率がいいってどういう意味って考えると人間や環境に優しい事も入ってくる。教育の理想的なモデルを考えて、それを藤枝では実践していますよといえ、日本中・世界中から見に来ます。そういうものをみんなが目指す、そういうやり方もありだなんて思います、日本一って意味で。

皆さんがおっしゃっているのは、先ほど委員さんに参考の為に子供をどう育てたいですか？と聞きましたが、頭の中にモデルを持てばいいんですよね、こうしたいという理想を。先生達も持てばいい。そのモデルをここで作って定型する。しかも、それは日本中の人、世界中の人が見に来るようなもの。

「日本一」で考えると、俺の所も日本一だってなるし、何なら日本一になれるかと探すようになる。

我々が一番困っているのは何が理想なのか、何がいいモデルなのか理解できていないことですよね。そこをここで議論する。将来、日本のみんなが羨ましがるモデルを作るんだという方向にするのもいいと思う。

G委員

私は、初回の議論に出なかったのですが、正しいか分からないですけど、今日の話をついてたぶん入口で教育日本一っていった教育のイメージの概念が学校教育、教科学習という部分から議論が始まったと思うのです。

それと、教育っていうのはエドゥケーションとって引き出すって言うのが本来の意味（ラテン語では）です。で、教え育むって部分もありますが、子供の持っているものを引き出すという人格の形成があるという教育基本法が一番のソースがあります。その議論が、たぶんたくさんこの会の中に出てきて、その学校教育という教科学習的な知的な学習だけじゃなくて、子供の教育の中では人として育つ部分がすごく大事っていうのが、ここでずっと議論されてきて、それが塾の問題とかいろいろと出たと私は思っています。

一番初めに、子どもの人格の形成っていうのは基本的には家庭ですよ。ここで基本的な愛着っていうのを育てて、それから保育園、幼稚園というところで、自分を愛してくれる大人（近親者）ではない大人を知って、それは子供会や老人会も含めたところで社会的信頼を育てた子どもたちが、小学校・中学校に行って子供だけの世界の中で自己肯定感や自己信頼とかアイデンティティという自分を作っていくと、このようなことが全部重なっていくと人として思いやりがあるとか創造性があるとかいうことになる。

教育のイメージが日本一という入口の論議から何回かやっている中で人として豊かになるって事も大事だって論議されてきたような気がしていて、そ

それはなぜかという、このメンバーだからだと思います。教育というのを教育の専門の人だけではなく、家の人とか地域の人とかNPO 法人とか、自治会の人・老人会・PTA みんなで子供のことを語るっていう、これがすごい事だと私は思っています。

アフリカには、一人の子が生まれたら村中の大人がその子どもに必要なんだよって伝える子育て文化がスワヒリ語圏の中にまだある。そうして考えたとき藤枝の未来応援会議にいろんな人がいっぱい集まってきて子供の事を考えているって、これが日本一だなと私はすごく思っている。

幼稚園の周りに黄色いお洋服を着た「見守り隊」の人たちが時々いて、散歩していると子どもたちにすごく声をかけてくれる。そういう中で育つ部分ってすごく大きいと思います。だから、市民をあげて教育のことを語るネットワークを作って子供の事を考えようっていうことの日本一はどうだろうと、ほかの自治体は、やっているのかな？と思っているのが一つ。

二つ目に例えばですよ、創造力で問題解決能力ってこの創造力はクリエイティブですよ。イマジネーションの想像力とは字が違うが、この想像力、イマジネーションがないとクリエイティブな創造力は発達的には育たない。

おじちゃんおばあちゃんがクリスマスの時期になると何欲しいって聞く。サンタは宗教を超えお坊さんも自分の子供にやっている一つの文化の訳ですよ。おもちゃ屋さんに行ってどれを買うのって聞くのではなくて、サンタの文化を活かしてやるのが将来のクリエイティブな創造力を育てることになる。そういう所での家庭の子育て力が変わってくる。

私はやっぱり子供心を知っていく事がこの中心軸で、みんなが学び合っていくことかなと思う。大人の経験と勘と自分の子育て力もすごく大事だけど、子供は面白いですよ。「ようちえん いやや」って本があります。子どもが幼稚園行くのがイヤイヤって言って、パッとめくるとシールが蛇だからイヤ、自分は桃が好きなのに自分のクラスはさくら組だからイヤとか、つまり子供は大人が考えもしない想像的な世界の中で反応するわけですよ。そういう時にどういう風に大人は接していくか。

小学生が幼稚園にボールを投げ込んでしまった時に、『すいません、ボールを投げ込んだじゃった』って言って「門から回ってきて」って言ったら、ちゃんと門から回ってきて『すいません、ボール取らせてください』って「すごいね、あなたたちそういう事が言えるのね。すごいよ、またボールが入ったら言ってね」って、こんなどうでもいいような小さなことが人間的な人格の形成にもなるっていうか、この子にとって私は先生じゃなく、ただのお婆さんの関わりです。

そういう関わりという部分が、人格の形成と今の学校教育という知的的好奇

心を育て、将来この国を担う力を育てていく学校教育と重なっていく両方が必要だっていう論理がこの会議に生まれてきているような気がしてきて、それには沢山の人のを集めて、一つのこの事を考えようって市長さんが始めたという、その事がすごいかんって思いました。

委員長 日本一かどうかはわからないけど、みんなにとって羨ましいモデルですかね。

G委員 教育者だけが集まって教育のことを語っているじゃないよって、もっと違った人も必要かなって部分はありますが、それならモデルになるかなって。

H委員 例えばね、藤枝駅前に降り立った人が、生涯学習センターに行きたくて、道を教えて下さいって言ったとします。その時に適切に道案内ができる、上手にできる、そして的確に説明できる。それから、言葉が適切・相応しい・優しい・親切な感じがする・笑顔で説明する。こういう姿は子供が育っている姿だと思いますね。

どこかを切っただけで、ここがこうだって言っているのではなくて、そういう形である現象をとらえた時に「藤枝に行ったら、すごく子供が育っているな」って評判になる街。これが日本一だと私は思いますね。

資料に上手にまとめてある、これをもう少しこなれた言葉で分かりやすく、10年計画って事ですので、2、3ステップをつけて、作っていけば、きっと素晴らしいものが出来るじゃないかなって見させていただいています。

今、学校でも教育って一概に言っていますけど、算数・数学の答えを出す時に、ただ計算をしたり、 $\bigcirc\times$ 式で選ぶということではなくて、どういう過程で答えが導き出されたか、説明式の回答を求められる時代なのですよ。まさに創造力であり、コミュニケーション能力である。そしたら小学校の低学年ですと、「初めに・次に・だから」って言うような三段論法式に教えていくとか、そういうことが必要です。ね。

今日の勉強のまとめを自分の言葉で自分なりにまとめてみましょうとやっています。これは本当に子供の能力育成の為に適切かどうか。お母さんに分かる様にまとめてみなさいとか、人を対象にして伝わるように書いてもらいなさいとするべきではないか。マニュアルみたいなものを出させるのではなく、もっと血の通った方法が大事じゃないかと思います。

そういう意味で工夫していけば、藤枝の教育の素晴らしい部分が、きっと実ってくるのではないか思うのですよ。それが学校の先生方にもお願いしたいことだし、各家庭の親の立場でも、そういう事に気を付けて子供を見守っ

ていくという風にすればきっといい結果が生まれると期待しています。

I 委員 前から出ているお話で、街全体で育てるってということや、藤枝という場所にもう一度戻ってきたいと思えるような、誇りを持てるような環境づくりという意味での「学びの環境日本一」、日本一と言うのか、モデルと言うのか、そうした環境づくりがいいと思う。

自分の子供はまだ生まれたばかりで小さいが、妹の子などの話を聞くと習い事がすごく多いと思う。塾やスイミングスクールに行ったり。それはスイミングスクールに行っているかそうじゃないかで、最初から学校の方針も変わるので、泳げるようにしてあげたいというのもある。でも、そういう所にたくさん通えば通うほど、いろんなものが見えない。周りの環境がいかに良くても、それを見れる状況になってこないと、藤枝ってこういう街で、周りにこういう人がいるとか気が付かないで終わってしまう。

藤枝という街が子供にとって誇りに思えるような、人も含めてそういう形になっていくことが必要だし、それを子どもが見られる環境に、子供の時間がそういう所で使えるような環境にしていくことも大事だと思います。まとめると街全体で子どもを育てるような環境にしてきたい。

J 委員 学びの環境は、地域全体の取り組みや0歳からの教育という部分までまとまっていていいなと聞いていました。

話は変わりますが、大洲地区では学校内で野外活動をやりたいと学校に申し出たが、当初は勉強させたいのだと断られたそうです。それが学校行事の一環として始められることになり、近年では学校側からは是非やって下さいという話を頂くようになり、すごく喜んだという話を聞きました。

以前にも話がありましたが、子供は遊びや自然に触れ合うことがすごく大切だなと、勉学については、先ほどあった塾の話、物の見方そういったものを親と一緒に家庭で作っていったらいいなと思いました。

K 委員 「藤枝っていいね」って言われる事が何回かあって。特別支援学校は障がいのある子どもの教育場所でありますが、子どもは基本的には地域の子どものものですよね。藤枝市の〇〇町の町内会の子供です。しかし、学校に来ている間は地域から消えている。それじゃあいけないと、障がいがある子もない子も同じ地域の生活者だし、子供らしく遊んだり学んだりの環境が大事だし、空白の期間があってポンって社会に出てから地域で生活しようとしても難しいので、そういう発想から居住地校交流をお願いしています。そのお子さんが本来いる学区の小学校に年に何回か仲間に入れてもらい一緒に生活す

る。

そういった時に藤枝っていいねって言われる。それはなぜかと言うと、受け入れがいいですね。小学校や中学校の校長先生も、担任の先生も、朝の会の忙しい時にもちょっとした事してくれます。大変な準備とか時間の都合をつけて、心が温まるなって思います。ご迷惑かけているなって正直思いますが、将来的には支え合う仲間が出来るので大事なことだと思ってやっています。そういう受け入れがとていい。これは、いいねって言われる。自分で言っている訳じゃなくて、そういう声を聞きますから、ありがたいなって思います。

そうやって受け入れてもらって良かったのは、地域の子供がスーパーで買い物している時に「〇〇ちゃん」って声をかけてくれる。そういう、ふれあいの機会があるから、子供同士の支え合いが出来て、そうやって一緒にいたお母さんにも「この前学校に来た〇〇ちゃんだよ」と教えてくれる。子供も大人もそうやって支え合う仲間になるのかなって学びの環境を整えていって協力してもらっているなって、そういった実績があり、他の地域の人から藤枝っていいねって言われたのは誇れることです。

街の中に障がいのある子供とか障がいのある方の姿がもっと多く見えるようになったらいいなと思います。限られた学校や限られた場所で生活しているので、あんまり表に出ないですよ。もっともっといろんなところで見かけられるように、それが当たり前になるような街でもと感じました。

委員長

中国のブログを読んだのですが、最近、中国の人が日本を訪問する事が多くなりましたよね。その人が日本に来てビックリしたと『日本では障がいのある人が車椅子で街の中を走りまわっている、障がいのある子供をみんな支え合っている。中国がここまでなるにはあと何十年かかるだろう』と書いてありました。

我々は、もう何とも思っていないですが、世界から見たらモデルですよ。私は日本一って言うのは難しいですけど、モデルって言った方がいいと思っているのは、日本はダメだダメだって、ずっとマスコミや経済学者や偉い人に言われ続けてきた。でも、世界の人が見ている目では日本はモデルになりつつある。

例えば、助け合いだとか障がいの子供の事とか。それから、海外から静岡に来る大学院の人は「静岡の人は本当に静かに話して洗練された人が多いね」って言います。反対に静岡の人は自分たちを「優しくてダメだよ、気概がないね」と言う。全く違う。

スーパーに連れて行きますと、野菜までが芸術的にきちんと並んで、「最も

先進的な洗練された我々の理想だよ」と。年金制度でも病院の制度でも、そういう事を言う人が非常に多い。国際会議などに出ても、21世紀のみんなが長生きするような社会は日本がモデルになっている。でも、日本人は否定的でダメだと言う。日本人は教育の問題でも考えて、みんなが羨ましがるモデルを作ってみればいい。

脱線して自分の大学の話になりますけど、私が産大の学長を10年前に引き受けたときに、こういう事を掲げました。日本一の大学になろうとは言わなかった。「21世紀の新しい大学のモデルになるようにしよう」と。モデルとは何か、理想の教育とは何かってみんなで考えました。理想学・理想設計論です。

私は、今21世紀っていうのは大変動の時代で、あらゆることが変わらなきゃいけないと思います。だけど、変わらない。どういう風が変わっていかなくちゃいけないか。地域ごとに考えてモデルを自慢し合ったりしなくちゃいけないと思うのです。日本一の環境モデル。世界中の人や日本中の人が見に来るような、教育のモデル地域がここにあったと言われるような、そういうものを目指すというのも一つの手じゃないかと思いますよ。皆さんのおっしゃっていることも、まさにこうありたいという理想ですよ。

皆さん現状を肯定されているわけではないですよ。先ほどの、東大の問題もまさにそう、残念なことに東大に行った人は優秀だと思っている。私は昼行燈だと思っている。私も東大出ていますが、そう思い込んでいるだけであって、それを打破することも21世紀に重要なテーマです。皆さんが座学以外をやると最終的に東大に行かせたいから塾に行く。東大に行かせるための教育になってしまった。塾に行かせて「こんな事しても進学校に入れない」、進学校に入っても「そんなことしてると東大入れないぞ」と言うのは、本来の教育ではない。それから脱皮していかなければならない。それが創造力や問題解決能力をつけていく教育なのかもしれない。

もう一つ、若い人がどんどん街から出て行ってしまっている。なぜか。地域の大学の数も少ないのですが、みんな東京・大阪・名古屋の大学に行ってしまう。静岡県の高校卒業生の25%しか静岡県に残らない。街の活性化を一生懸命やっている一方で、若者を街から追い出している。それでいて街に若者がいない、高齢化しているとブーイングしている。これは矛盾している。長い社会の構成の中での結果なのではないけど、10年20年たって変わっていくこともまた重要だなと思っている。

あらゆる産業が衰退している大きな理由の一つは、農業でも商店でも優秀な人材、やる気がある人が、みんな製造業などに就職してしまい、やる人がいなくなってしまった。それではいけない。ただ藤枝は人口が増えている。

人口を増やすには、一番いいのは若者が入ってくることに。

磐田市は、私たちの大学に留学生が来た時に奨学金を出している。そうすると磐田市に留学生がたくさん住む。磐田にキャンパスがある為に若者が 500 人余計に住んでいる。若者を街に引き付けるには、どうしたらいいか。いろんなアングルから考えなきゃいけない。これは、10・20・30 年の問題だと思いますね。

医者が来ない理由は教育環境にある。自分の子供を医者育てたい。「静岡の高校じゃダメだ」って静岡のがんセンターを作る時に多くのお医者さんが言っていました。昨日も東京から偉い方が来られて、私が「何年いますか？」と聞いたら『3 年です』、「次は？」『また 3 年です』、「子供はどうしていますか？」『東京にいます』、「一緒にきてくれればいいのに、転勤先にいい進学校はありませんか？」『小・中・高等学校だと途中編入はなかなか難しいですよ』と、A 委員は楽だと言われましたが、そういう事を言われまいた。

こういう問題は学ぶ環境と関係ある。街を今度どう発展させるかっていう事。入って来た時に受け入れてくれるか、環境っていうのは見えない。

転勤って難しい。NHK の記者も 3 年ごとに転勤があり、一番の問題は転勤するという覚悟とバランス。「何のバランスですか？」『子供』って言われました。

日本の社会を混乱させているのは、教育制度にもある。みんな単身赴任で親と一緒にいけない。教育界ってそういう面では、働く環境としても他から入って来易くなければいけない。留学生が入ってきて住み易いとか、国際化が進んで来たらどうする？この藤枝っていうのは数字では表せないけど、留学生の受け入れの評判がいい。そういう、いろんな側面からも教育問題は考える必要があると思う。

C 委員

転勤の話で僕も転勤を経験しています。娘が 1 人、息子 2 人。幼稚園 2 園・小学校 3 校・中学 2 校、東京と県内を回っていたのですが、昔は家族一緒に当たり前で、やっぱり家族と一緒にいいですけど、子供が要領よく溶け込まないといけないっていう先入観がありますから、どうしても保守的というか、大人しくとか環境に合わせる、郷に入れば郷に従えだと、だんだん個性がなくなる。

転勤と今の教育の話だが、転勤が問題になるかっていうとそればかりではない。この創造力や問題解決力がいろいろ書いてあるが、遊びが幼児や小学生くらいの枠の中では子供の本義だと、そういうものをにじませて、その上で教育の環境日本一としたい。今度の学習指導要領では文科省もいろいろ考えているようだが、それでもまだ画一的な枠の中にはめようとする面はあ

る。前回の騎馬戦の話を出したが、学習指導要領を押さえておいてくださいって話ですが、そうじゃなくて一度そこから離れる。教育日本一と言うなら、一線を画すとは言わないが当てはめるような事はしない方がいいじゃないか。

OECD の PISA も日本は落ちてフィンランドやオランダの方がはるかに国際的にもトップクラス、韓国や中国は日本のようなやり方を持ってきて上位にいます。けれども、遊びの中で育てるということに着目してやった方がいいじゃないかなと思う。今は教育情勢も大阪橋下市長とか川勝知事などが改革に動いているが、独自の路線を考えていけたらいいなと思います。

委員長 私も最初に事務局に独自の路線を行けますかと聞いたんですよ。本当は独自路線でいった方がいいと思う。

B委員 まず、根本的な話でいうと、藤枝市が第5次総合計画で教育日本一を目指します。そこから、どういう日本一を目指しますかになったと思うのですが、他の自治体でも同じようにやっている所がいくつかあるんですよね、すでにしっかりとした教育計画書を作り上げている自治体もあります。そこも日本一を目指していて、日本一はどのような姿にしましょうと20数人の委員さんが集まった中で作った。私自身は日本一って聞いた時は数値で計れなきゃいけないものだとは思わないですよ。逆に藤枝市のみんなで「ここまでやったら日本一だよな」って自画自賛でもいいかなって思っている。それが周りから見たときに、すごいな、面白そうだなって見に来たりして、一緒にやってみたくて、やっぱりあそこの教育は日本一だになっていく、そういう日本一でもありかなって。

日本教育って歴史や社会とかの理解度を図る時って、必ず暗記しているかどうかで、100点満点であなたの歴史評価が90点80点とつけるじゃないですか、それがあたりまえで、何十年も教育やってきている、センター試験・共通一次試験でも。何でこんなことするのかなんて思う。たとえば、「君が織田信長なら、あの時代どういう風な政事をしますか？君が徳川家康なら、200数十年も続くような組織をつくれませんか？」そういう事を考えて自分なりに、こうしたなって学ぶ事の方がすごく大事。日本の歴史って近代の題材を2・3月にちょこちょこって走って終わる。本当は、近現代の数十年があつて今の日本があるわけだから、そこをしっかり教えなければいけないのにやっていない。根本的に日本の教育を直さなきゃいけないなと思うし、数値化するっていうのが日本の教育の大きな流れのようだが、そんなことじゃないですよ。自画自賛でもいいじゃないかなと思います。

自分の事になるんですけど、自分も委員長と一緒に東大に行きましたけど、だからといって子供に東大に行ってほしいとは全然思わないです。けども、東大の中にも、ものすごくクリエイティブな人間もいるし、暗記だけがスペシャルに強くて入ったって人間もいるし、多種多様です。意外とそういう決められた枠の中で一人一人が自分の能力を活かしながらやろうとしていると、すごく磨かれていこうなと思う。こうすべきなんて自分も思わないで、笑顔で挨拶するとか、人の目を見て話すとか、そういう事ってすごく大事じゃないかな。今、高校生と中学生の子供がいて一番難しいのが携帯電話をどうするのか。メールで一方的に伝えて、双方のコミュニケーションがとれていると勘違いしている子どもや大人もいる。例えば、藤枝市で一度携帯電話を使うのをやめてみましょうってやったらどういう風になるか。昔は、ないのが当たり前で、人と人が触れ合って面と向かって話をして気持ちを伝えて受け入れて、それで幸せ笑顔が溢れていると、ものすごく幸せなんだろうな。

A委員 話が違うかもしれないですけど、「おやこ館」では、土日はお父さんが子供と来るのが多いです。最近のお父さんは、そうやって小さい赤ちゃんのおむつを替えたり、ミルクをあげたりとか、だんだんとお父さんも子供に関わってきて、これからどうなってくるのかなって楽しみだなって。

このお父さんたちの世代が大きくなっていくと、また違った考え方がでてきて、これからはまた変わっていくのかな。これからはお父さんが参加して、いい結果になるのか悪い結果になるのかわからないですけど、夫婦で話あって地域のみんなで、子供をいい方向に導いてもらいたい。

委員長 事務局の資料については、よくまとまっているというご意見ですか？

A委員 そうですね。

D委員 もう孫がいる歳ですが、昔の事を思い出して、自分の子供にどんなことをしたかって最初の質問を思い出してみました。PTAの挨拶運動は、その頃でも、どこもやっていたんですが、自分の子供には、たくましい子供であってほしいなって思いました。いろんな環境があると思いますが、そんな環境に負けないで社会人になっても生きていける様なたくましい子供に、ふっと思い出して、そんなのはどうなのかなと思いました。

C委員 県内で住んでいたのは、浜松・沼津・富士・三島・松崎町。3年から4年く

らいで点々と暮らしていた。その学校に子どもも入っていましたが、そこで活躍していた郷土の偉人ですが、松崎では依田勉三、浜松では国学者の加茂真淵、そういう特色ある教育を出してやってはいるが、どちらかと言えば静岡県は文科省の優等生。中庸でいろんなことはやっているが思い切ったところがない。一歩踏み出すようなところがもうちょっと見受けられるといいなと思う。それが土地柄や風土にあっているかはわかりませんが。

やっぱりそういう意味からすると藤枝の教育も少し変わる。いろんな学校でサッカーも強いしそういう意味では個性的な子であって欲しいな。静岡県は中庸っていうのが好きなんだと思います。県の力って全国で 10 番くらい、人口も工業出荷額でも。あんまり突出せずに、かといって下にもいない。もう少し思い切ってハチャメチャではないが、もっと大きくやった方がいいのかと思います。

委員長

私もその意見に賛成です。

皆さんが描く 21 世紀にしなくても、これからの将来を見据えて、こうあるべきと言う教育を描いて、それをモデルにしていくっていうのが一つの方法だと思う。まだ文科省は 21 世紀型は決めていないに等しい。21 世紀はどうありたいかって言うのを議論にしなければ、創造力や問題解決能力は言われてきているが、実際にはあまり行われていない。